

講演資料

市民防犯編

うさぎママのパトロール教室
(文責:武田信彦)
www.usagimama.com

一般市民による
防犯活動とは？

市民防犯が目指すこと

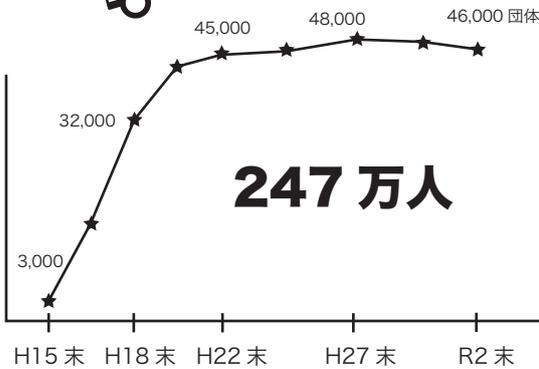
犯罪が起きにくい環境づくり
助け合いの雰囲気づくり

青色回転灯の
パトロールカー
全国で44,000台!



警察による防犯が「直接的防犯」
だとしたら、市民防犯は「間接的
防犯」といえるものです。
犯罪や非行と直接対峙するもの
ではなく、子どもたちや地域の皆
さんへ目を向け、見守りや健全な
声かけを行うことで、犯罪が起き
にくく、助け合いの輪が広がる環
境づくりを目指す活動です。

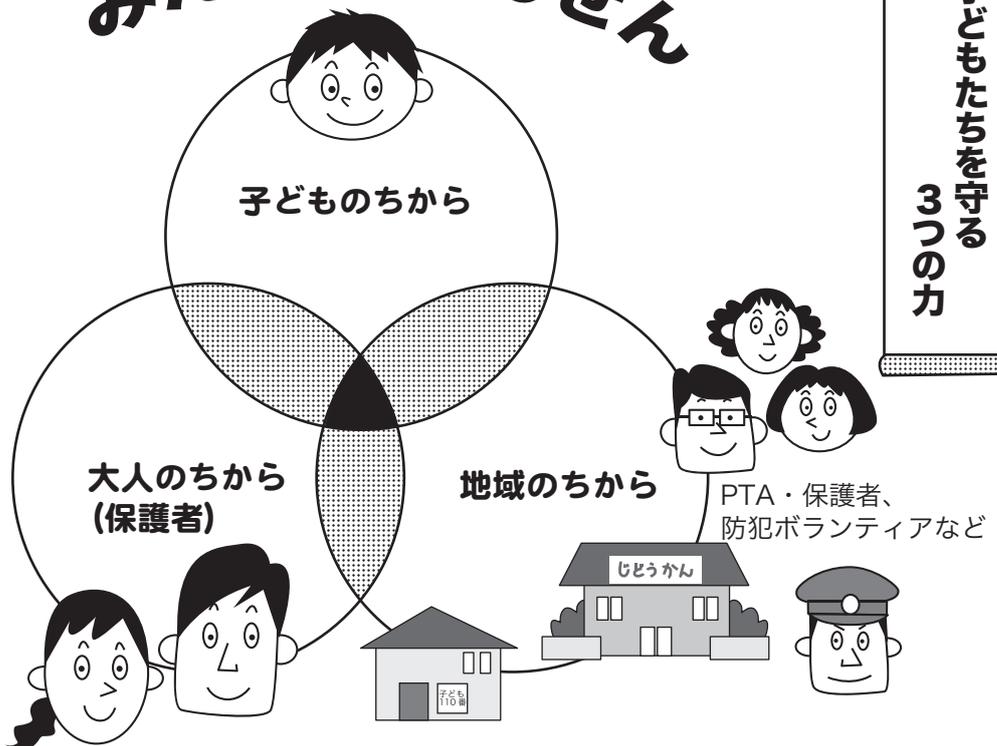
ポイント!



「全国の防犯ボランティア団体数の推移」
※平均して月1回以上の活動、5人以上の団体

みんなであんぜん

子どもたちの安全を守るためには、①子どもの
力②自分を守るための予防や対処などの力。③大
人の力④保護者など身近な大人が子どもを守り、
子どもがもつ身を守る力を引き出す力。⑤地域の
力⑥子どもや保護者だけでは対応できない範囲を
サポートする力。これらの力が重なり合うように
連携することで、安全の力が強くなります。



子どもたちを守る
3つの力

ポイント!



防犯は、パトロールをはじめ、見守り、各種啓発活動など、さまざまな活動スタイルがあります。最近では、「ながら見守り」と呼ばれる、ライフスタイルに合わせた活動も広がっています。

それぞれの地域に合わせた柔軟なアイデアで、安全・安心両面が元気になるための方法やスタイルを実践しましょう。

安心

安心

地域住民や子どもたちの安心感が育まれる

安全

連携

関係機関や地域の連携・協働が活性化する

意識

一人ひとりの防犯意識を高める

予防

犯罪が起きにくい環境づくり

防犯ボランティア
期待できる効果



見守りが育む

世代を超えた安全安心



ポイント!

防犯ボランティアの活動には、防犯を超えた効果も期待できます。それは、子どもたちの心を育む効果です。日々の見守りをおとして、あいさつや健全な声かけを行うことは、子どもたちにとって大きなメッセージになります。

あいさつの返事がない、声がかけてくれない...など見守りがしにくい環境も増えていますが、そんな時こそ、元気にあいさつや声かけをしましょう。「地域教育」ともいえる貴重な力だからです。

講師紹介

武田 信彦 (ヨッシー)

うさぎママのパトロール教室主宰
安全インストラクター

1997年、大学時代に国際的な犯罪防止NPOの活動に参加。
2006年より、安全インストラクターとして講師活動を行う。
「市民防犯」を提唱し、全国で講演、ワークショップなど多数実施。
パイオニアとしてメディアやコラムでも発信中。

著書・監修

「もしもテロにあったら、自分で自分の命を守る

民間防衛マニュアル」 ウェッジ

「SELF DEFENSE『逃げるが勝ち』が身を守る」 講談社

「ガールズ☆護身術」 スタジオタッククリエイティブ

「親子で読もう!子どもの安全ブック」 スタジオタッククリエイティブ

「子どもの安全・安心ハンドブック」 ベネッセ子ども基金

あんぜんパワーアップ!



防犯ボランティアは
地域の安全力を元気にします!

講演資料 防犯ボランティア実践編

防犯ボランティアを行う際は、自治体や警察と連携・協働し、地域の状況に合わせた活動を行うことが重要です。また、学校、児童館、PTAなどとも情報交換を行い、人々の関心事や不安に感じることをリサーチしましょう。

いま、学生防犯ボランティアも各地で活躍しています。世代を超えた交流は、活動そのものを活性化するきっかけとなります。

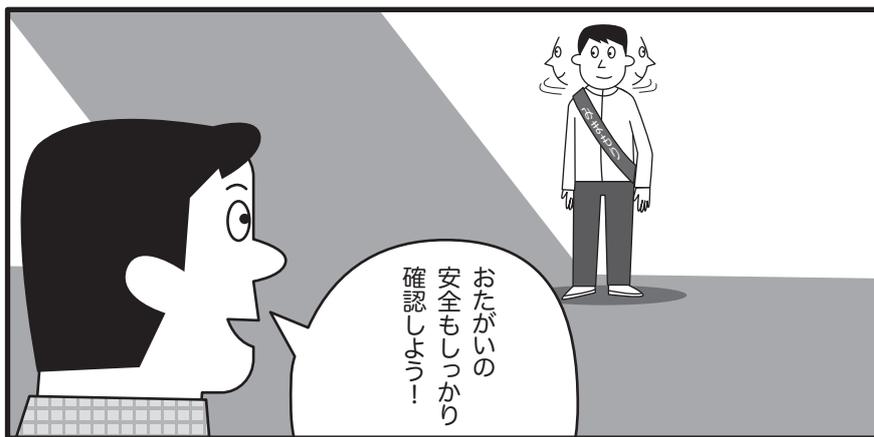
ポイント!

うさぎママのパトロール教室
(文責:武田信彦)
www.usagimama.com

防犯パトロールは、「犯罪が起きにくい環境づくり」と「助け合い」を実践するものです。とくに、カラフルなユニフォームや腕章を着用して姿を見せることで、犯罪がしにくい効果(自然監視)とともに、困っている人が助けをもとめやすくなる効果が期待できます。大切なことは、笑顔と元気なあいさつです。優しい強さで、地域を守りましょう!



ポイント!



姿を見せることで
防犯と助け合いの効果を広げる

見守りの際には注意すべきこともあります。
 ①適度な距離感を保つ＝過度な接触は、誤解やトラブルにつながります。②飲食物をあげない＝飴やドリンクもあげない。健康面への配慮と飲食物を用いた犯罪を防ぐため。③自ら敷地や車に招き入れない＝保護者の許可なく連れていく行為は犯罪のリスクを伴います。緊急時に保護する場合は除きます。
 あいさつ・健全な声かけで見守りを行いましょう!



あいさつと声かけで
安全・安心をひろげよう!

心配な子どもと出会ったら…



防犯活動は、継続することでその効果も大きくなると言われています。しかし、くれぐれも無理は禁物です。誰かひとりだけに負担がかかるように役割分担をする、活動頻度は少なくなっても出来る範囲で続けてみる、パトロールや見守りの方法を変える、地域住民や子どもたちに安全の大切さを伝えるような啓発活動にチャレンジしてみる…。

みなさまが育んできた安全と安心の輪が消えることがないように継続できる方法を考えてみましょう。

ポイント!



- 一、無理をしないよう
- 一、活動の種類をひろげよう
- 一、活動を発信しよう
- 一、世代をまぜよう
- 一、楽心の雰囲気をつくらせよう

元気につづけよう!
継続するコツ

通報・連絡

事件や事故を目撃したときはすぐに通報!
 気になることがあれば各機関に連絡しましょう。

- 警察通報用電話 : 110番
- 警察相談ダイヤル : #9110番
- 虐待・子育ての悩み : 189番 (児童相談所)
- 詐欺・悪質商法など : 188番 (消費者ホットライン)

※警察署や自治体の窓口の連絡先も調べておきましょう。

自然に触れたい

季節を感じたい

健康のためにも!



① ひとりにならない



あんぜんスイッチ オン!



たいせつ じぶん こころ からだ
大切な自分の心や身体を
まも
しっかり守りましょう!

講演資料

子どもたちのあんぜん編

うさぎママのパトロール教室
(文責: 武田信彦)
www.usagimama.com

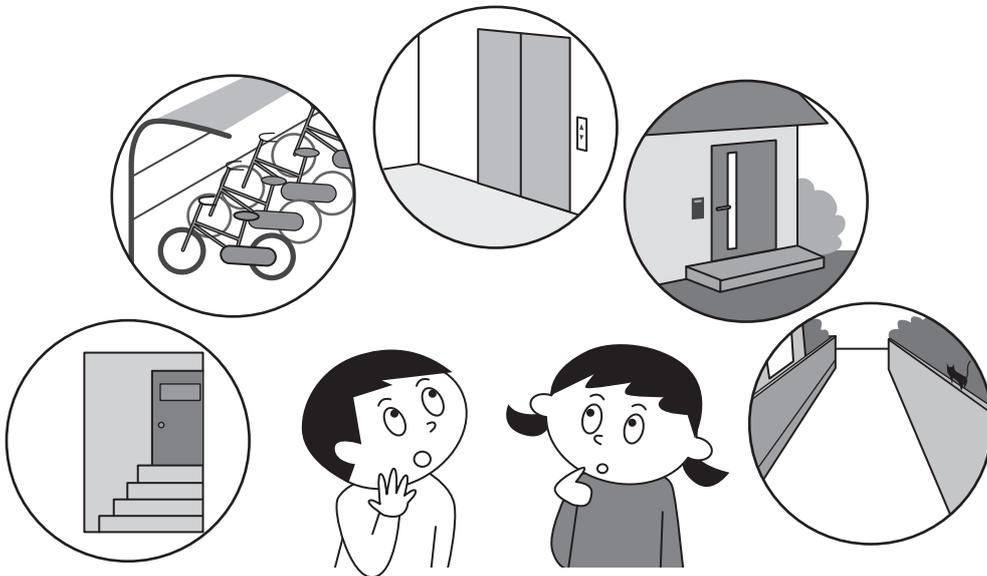
ポイント!

子どもたちのコミュニケーション能力を育むためにも、地域のみなさまとのあいさつなどはとても大切な練習の機会です。また、安全確保のためには、登下校時など、保護者やPTA、地域のみなさまの見守りの中で、「ひとりにならない」環境づくりが欠かせません。子どもたちと一緒にどうしたらひとりにならないかを考えてみましょう。

② ひとりになるとき どんなとき?

ポイント!

子どもの行動範囲が広がると、どうしても「ひとりになる」瞬間が生まれます。それは、最も気をつけなければいけない時でもあります。場所や時間にとらわれず、「ひとりになる」瞬間はどんなときでしょうか。



③ まわりをよくみる、よくきく

ポイント!

まわりに意識を向けることは、危険を寄せ付けず、万が一のとき対処を早めるための「予防力」です。とくに、自宅周辺など慣れている場所は、心や身体に隙(すき)が生まれやすくなるので注意が必要です。「だるまさんがころんだ」など、簡単なフレーズで習慣にするとよいでしょう。

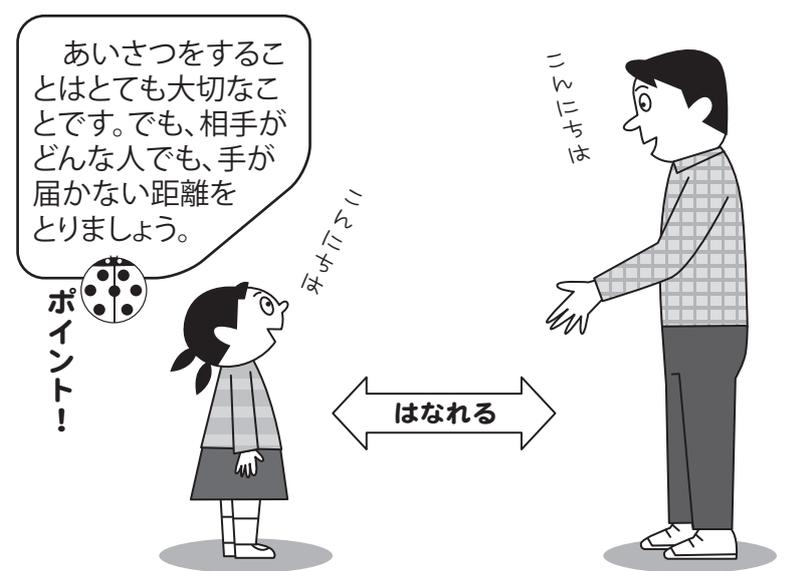


もし、ひとりになったら、まわりをよくみて、よくきいて歩きましょう。自分のまわりにどんな人(車、バイク、自転車...)がいるのか、しっかり確認して歩きます。

⑤ できません!



④ さわられない、つかまれない



⑥ にげる



ぼうはん 防犯ブザー



防犯ブザーは、逃げる、助けを呼ぶ時に役立つ道具です。すぐ手の届くところに身につけ、時々電池の確認をしましょう。

⑦ たすけてをつたえる

